

上峰町文化財調査報告書第48集

上峰町内遺跡確認調査 XI

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—平成30年度—

2020年3月

上峰町教育委員会

上峰町内遺跡確認調査XI

上峰町内における開発行為に伴う

埋蔵文化財確認調査報告書

—平成30年度—



2020年3月

上峰町教育委員会

序

從来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言われてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この30余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

令和2年3月

上峰町教育委員会

教育長 野 口 敏 雄

例　　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡確認調査のうち平成30年度に実施した町内遺跡確認調査の報告書である。
2. 本書は、令和元年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、原田大介・伊達有彩・松本周作が行った。
10. 本報告書に係る町内遺跡確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

凡　　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区分して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに平成をあらわす「H」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、調査位置図・確認調査一覧表・報文中の調査番号は一致する。
例) 平成30年度に3番目に実施した〇〇遺跡確認調査　　H30-3　〇〇遺跡
3. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。
4. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
5. 先の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっている。本書では、必要に応じて現在の市町名のあとに（ ）で旧市町村名も併記している。

調査組織

平成 30 年度

調査主体 上峰町教育委員会

調査事務局 総括野口敏雄 上峰町教育委員会 教育長

事務主任 中島洋 〃 文化課長

経費執行 原田大介 〃 文化課主査

〃 伊達有彩 〃 文化課文化係

〃 松本周作 〃 〃

調査組織 調査員 原田大介 〃 文化課主査

伊達有彩 〃 文化課文化係

松本周作 〃 〃

調査指導 佐賀県教育委員会

発掘作業参加者

平成 30 年度

石橋 康孝・大庭 始・北野 薫・古賀 篁夫・白土 翁・杉谷 嘉泰・田中 一馬・堤 横次郎・

宮崎 正秋・牟田 康孝・山田 富士夫

江崎 愛子・島 美保子

整理作業参加者

江崎 愛子・島 美保子（令和元年度 整理作業員）

目 次

序

例言・凡例

調査組織・発掘作業参加者・整理作業参加者

I. 上峰町の位置と環境	1
1. 上峰町の位置	1
2. 歴史的環境	1
II. 調査の概要	6
1. 調査に至る経緯	6
2. 調査の方法	6
III. 平成30年度の確認調査	9
H30-1 一本谷遺跡	13
H30-2 三上遺跡(1)	13
H30-3 周知外上米多地区	14
H30-4 櫻寺遺跡(1)	14
H30-5 寺家遺跡	15
H30-6 三上遺跡(2)	15
H30-7 三上遺跡(3)	16
H30-8 坊所二本松遺跡	17
H30-9 三上遺跡(4)	18
H30-10 四本谷遺跡(1)	18
H30-11 三上遺跡(5)	19
H30-12 継塚塗集落跡	19
H30-13 三上遺跡(6)	20
H30-14 三上遺跡(7)	20
H30-15 櫻寺遺跡(2)	21
H30-16 周知外下津毛地区	21
H30-17 西前牟田遺跡	22
H30-18 三上遺跡(8)	23
H30-19 四本谷遺跡(2)	23
H30-20 周知外井手口地区	24
H30-21 船石遺跡	24

挿図目次

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)	2
2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)	7
3 平成 30 年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	12
4 H30-1 一本谷遺跡 (1/5,000)	13
5 H30-2 三上遺跡(1) (1/5,000)	13
6 H30-3 周知外上米多地区 (1/5,000)	14
7 H30-4 横寺遺跡(1) (1/5,000)	14
8 H30-5 寺家遺跡 (1/5,000)	15
9 H30-6 三上遺跡(2) (1/5,000)	15
10 H30-6 トレンチ設定図 (1/1,000)	15
11 H30-6 トレンチ略図 (1/200)	16
12 H30-7 三上遺跡(3) (1/5,000)	16
13 H30-8 坊所二本松遺跡 (1/5,000)	17
14 H30-8 トレンチ設定図 (1/1,000)	17
15 H30-8 トレンチ略図 (1/200)	17
16 H30-9 三上遺跡(4) (1/5,000)	18
17 H30-10 四本谷遺跡(1) (1/5,000)	18
18 H30-11 三上遺跡(5) (1/5,000)	19
19 H30-12 継縄縗集落跡 (1/5,000)	19
20 H30-13 三上遺跡(6) (1/5,000)	20
21 H30-14 三上遺跡(7) (1/5,000)	20
22 H30-15 横寺遺跡(2) (1/5,000)	21
23 H30-16 周知外下津毛地区 (1/5,000)	21
24 H30-17 西前牟田遺跡 (1/5,000)	22
25 H30-17 トレンチ設定図 (1/1,000)	22
26 H30-17 トレンチ略図 (1/200)	22
27 H30-18 三上遺跡(8) (1/5,000)	23
28 H30-19 四本谷遺跡(2) (1/5,000)	23
29 H30-20 周知外井手口地区 (1/5,000)	24
30 H30-21 船石遺跡 (1/5,000)	24

表目次

Tab. 1 平成 30 年度 町内遺跡確認調査一覧表	10・11
報告書抄録	

図版目次

PL.	1	H30-1	一本谷遺跡	13
2	H30-2	三上遺跡(1)	13	
3	H30-3	周知外上米多地区	14	
4	H30-4	樅寺遺跡(1)	14	
5	H30-5	寺家遺跡	15	
6	H30-6	三上遺跡(2)	16	
7	H30-6	No.1 試掘溝遺構検出状況	16	
8	H30-7	三上遺跡(3)	16	
9	H30-8	坊所二本松遺跡	17	
10	H30-8	No.1 試掘溝遺構検出状況	17	
11	H30-9	三上遺跡(4)	18	
12	H30-10	西一本谷遺跡(1)	18	
13	H30-11	三上遺跡(5)	19	
14	H30-12	碇環濠集落跡	19	
15	H30-13	三上遺跡(6)	20	
16	H30-14	三上遺跡(7)	20	
17	H30-15	樅寺遺跡(2)	21	
18	H30-16	周知外下津毛地区	21	
19	H30-17	西前牟田遺跡	22	
20	H30-17	No.2 試掘溝	22	
21	H30-18	三上遺跡(8)	23	
22	H30-19	西一本谷遺跡(2)	23	
23	H30-20	周知外井手口地区	24	
24	H30-21	船石遺跡	24	

I. 上峰町の位置と環境

1. 上峰町の位置 (Fig. 1)

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町）と、南部は同郡みやき町（旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地域は郡境地区と呼称されている。

鳥栖市から佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）に至る佐賀県東部には、北部に背振山地、その南麓に発達する更新世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する更新世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に更新世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する更新世丘陵地域を中心に遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から更新世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においてもとくに弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鋳型を出土した鳥栖市安永田遺跡¹⁾、約400基の壺棺墓が検出されたみやき町（旧中原町）姫方遺跡²⁾、埋納された12本の銅矛を出土したみやき町（旧北茂安町）検見谷遺跡³⁾、壺棺墓から船載鏡を出土した吉野ヶ里町（旧東脊振村）三津永田遺跡⁴⁾、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な造構、遺物が検出された神埼市（旧神埼町）・吉野ヶ里町（旧三田川町・旧東脊振村）に跨る吉野ヶ里遺跡⁵⁾など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域を持つ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める更新世段丘上に弥生時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡の調査において細石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である⁶⁾。周辺地域では、吉野ヶ里町（旧三田川町）との境界に位置する二塚山丘陵の吉野ヶ里町（旧三田川町）側からナイフ形石器の採取例が報告されている⁷⁾。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡下層における阿蘇4火砕流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている始良-Tn火山灰（AT）の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において造構検出面としている「地山」



上峰町	12 塙六本谷道路	24 佐所坂跡	47 西岸水道跡	59 影神南跡
1 朝の院古墳群	13 塙上坂跡	25 鹿寺道跡	56 山田脇古墳群出土地	60 宮茂屋六本松道跡
2 猛西山山城	14 八種赤跡	26 松寺道跡	57 山田吉備群	61 伊勢守前方後円墳
3 二木桜古墳群	15 二塙山道跡	27 佐所二木松道跡	58 大堤古墳	62 馬鹿越跡
4 猛西山南蒙古墳群	16 五木石道跡	28 佐所三木松道跡	59 八幡社道跡	63 新家曾野村
5 境三木松道跡	17 松石赤跡	29 沼の原塙古墳跡	60 大堤古墳	64 西石動古墳跡
6 黒原古墳群	18 秘石赤道跡	30 西前半庄通跡	61 東尾削削出土道跡	65 西石動古墳跡
7 谷瀬古墳群	19 切通赤跡	31 米多姑跡	62 犬子野方後円墳	66 朝橋→谷瀬跡
8 境三木舞毛跡	20 一本谷道跡	32 甫半田越跡	63 犬子野道跡	67 三津永田道跡
9 青森吉備群	21 功所一本谷道跡	33 加茂塙古墳落跡	64 ドンドン塙道跡	68 仁井道跡
10 境立古墳群	22 上のひゅう根古墳	34 江庭城跡	65 可利道跡	69 幸上庄寺跡
11 境形原道跡	23 日能登古墳群	35 一ノ儀塙道跡	66 天保道跡	70 狹田道跡

Fig. 1 上峰町内主要道跡及び周辺道跡 (1/50,000)

の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている⁹⁾。

縄文時代になると、みやき町（旧中原町）香田遺跡⁹⁾や吉野ヶ里町（旧東脊振村）戦場ヶ谷遺跡¹⁰⁾などが出る。町内においても、これまでにも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡¹¹⁾、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤丘陵の調査¹²⁾において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「弥叔国」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三養基郡西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区の丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、斐桜塚から細形鋼劍や貝鏡を出土した切通遺跡¹³⁾、吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）に跨る、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い斐桜塚、土墳墓など約300基が調査され、舶載鏡、小型鐵製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡¹⁴⁾、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡¹⁵⁾、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の斐桜塚が検出された船石遺跡¹⁶⁾などが知られている。また、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡¹⁷⁾、船石南遺跡¹⁸⁾、八藤遺跡¹⁹⁾から住居址や斐桜塚などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期にはみやき町（旧中原町）姫方原遺跡²⁰⁾、上峰町五本谷遺跡²¹⁾などにおいて方形周溝墓が営まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀市大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市劍塚古墳²²⁾、みやき町（旧中原町）姫方古墳²³⁾、上峰町西南部から吉野ヶ里町（旧三田川町）に跨る目遠原古墳群²⁴⁾、神埼市（旧神埼町）伊勢塚古墳²⁵⁾、佐賀市銚子塚古墳²⁶⁾、佐賀市大和町船塚古墳²⁷⁾など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保-鳥栖線が通る山麓部から丘陵部に跨る一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡米多郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から吉野ヶ里町（旧三田川町）東部の目遠原一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚（現在、陵墓「都紀女加王墓」宮内庁管轄）はじめ無名塚、大塚、古福荷塚、福荷塚などの前方後円墳ばかりならぬ目遠原古墳群²⁸⁾が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄劍、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳²⁹⁾が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓から高位段丘上にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新立、奥の院、鎮西山南麓、屋形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落は、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中村遺跡³⁰、吉野ヶ里町（旧東脊振村）下石動遺跡³¹などが知られているが、弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なくいまだに実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中村遺跡、吉野ヶ里町（旧東脊振村）辛上庵寺跡³²、靈仙寺跡³³などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土塁跡³⁴や塔の冢寺跡³⁵などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土塁跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設=「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土壌の東方に接する八藤丘陵の調査において、土壌東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され³⁶、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める日達原丘陵の南端部に位置する塔の冢寺跡は、百濟系單弁丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、日達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の都司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡³⁷の調査などでまとまった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内のの中世城館址としては、北部の飯西山山城、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前平田城跡、江迎城跡、一の橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた³⁸。しかし、昭和40年代後半からの圃場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡とともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している³⁹。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

註

- 1) 藤原楨博・石橋新次『袖北竪跡範囲施設調査第8年次概要報告書』鳥栖市文化財調査報告書第30集 鳥栖市教育委員会 1980
- 2) 木下巧・天本洋一『姫方遺跡』佐賀県文化財調査報告書第30集 佐賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭『後見谷遺跡』北茂安町文化財調査報告書第2集 北茂安町教育委員会 1986
- 4) 金関丈夫・坪井清足・金関忠『佐賀県三津永田遺跡』『日本農耕文化の生成』日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭他『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第113集 佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介『八幡遺跡Ⅲ』上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志『原跡』『上峰村史』上峰村 1979
- 8) 下山正一・西田民雄『II. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質』『佐賀平野の阿蘇4火葬跡と埋没林』上峰町文化財調査報告書第11集 上峰町教育委員会 1994
- 9) 高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋『香田遺跡』『香田遺跡』九州横断自動車道関係埋藏文化財発掘調査報告書2 佐賀県文化

- 財調査報告書第67集 佐賀県教育委員会 1981
- 10) 七田忠志 「佐賀県戰場ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』 6-2・4 1984
- 11) 原田大介 『船石遺跡V』 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1995
- 12) 原田大介 『八藤遺跡II・堤土星跡II』 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998
前出(6)
- 13) 金闇丈夫・金闇惣・原口正三 「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭他 『二塚山遺跡』『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 『一本谷遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 『船石遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 17) 鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡II 図録編』 上峰村文化財調査報告書第6集 上峰村教育委員会 1988
鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡II本文編』 上峰村文化財調査報告書第7集 上峰村教育委員会 1989
- 原田大介 『船石遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第8集 上峰町教育委員会 1990
- 原田大介 『船石遺跡IV』 上峰町文化財調査報告書第9集 上峰町教育委員会 1991
- 18) 原田大介 『船石南遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第21集 上峰町教育委員会 2002
- 原田大介 『船石南遺跡II』 上峰町文化財調査報告書第22集 上峰町教育委員会 2002
- 19) 原田大介 『八藤遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1997
- 20) 木下巧他 『船方原遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会 1976
- 21) 木下巧・七田忠昭 「五本谷遺跡」「二塚山」 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 『劍塚前方後円墳』 島栖市文化財調査報告書第22集 島栖市教育委員会 1984
- 23) 前出(2)
- 24) 松尾積作 「日連原古墳群調査報告」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第9輯 佐賀県教育委員会 1950
- 25) 木下之治 「古代国家の形成」『佐賀県史』佐賀県 1968
- 26) 木下之治編 『銚子塚』 佐賀市教育委員会 1978
- 27) 松尾積作 『佐賀県考古大綱』 桃山博物館 1969
- 28) 前出(24)
- 29) 前出(16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 『下中枕遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第64集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高瀬哲郎他 「下石動遺跡」「下石動遺跡」 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(6) 佐賀県文化財調査報告書第86集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾積作 「東脊振村幸上鹿寺跡の調査」 『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第5輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳栄他 『蟹仙寺跡』 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・蛭一義 『堤土星跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾積作 「塔の深窓寺址」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第7輯 佐賀県 1940
- 36) 前出(12)
原田大介 『八藤遺跡田』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 『中世』『上峰村史』 上峰村 1979
- 39) 原田大介 『坊所城跡』 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

II. 調査の概要

1. 調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力を要請している。

2. 調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、原則として $10m \times 3m$ の試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に $10m$ のメッシュを組み、このメッシュに $10m \times 3m$ の試掘溝を一マスおきに市松模様に設定し、試掘溝の配置計画を作成している。この試掘溝配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、確認調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を探ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合などは作業員の人力により掘削を行っている。

確認調査の結果、遺構などが検出された試掘溝については、適宜、遺構配置等の略測を行い、縮尺1/100程度の平面図、縮尺1/20程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラ・デジタルカメラによる写真撮影を行い記録している。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

また、確認調査の結果、開発予定地内から遺構や遺物が検出された場合で、かつ、調査原因が個人専用住宅の建設、個人による自己所有農地の改良など、遺跡の記録保存等に係る経費について、これを開発主体者に求めることが困難であると認められる場合は、本補助事業の予算の範囲内において、検出された地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ範囲について記録保存を目的とした必要最小限の本調査を実施することとしている。

上峰町全図

地名	地番
1. 本町西方面町	35 大字古瀬
2. 鶴ヶ谷川(二重川)西岸	36 今井山地
3. 鶴ヶ谷川(二重川)東岸	37 今井山地
4. 二重川北岸(大)	38 上の川(ナガシ)
5. 二重川北岸(中)	39 下の川(シモシ)
6. 二重川南岸	40 三日野
7. 三日野北岸	41 三日野
8. 三日野南岸	42 三日野(ミヤマ)
9. 木戸木の谷地	43 木戸木の谷地
10. 木戸木の谷地	44 木戸木の谷地
11. 木戸木の谷地	45 木戸木の谷地
12. 木戸木の谷地	46 木戸木の谷地
13. 木戸木の谷地	47 木戸木の谷地
14. 木戸木の谷地	48 木戸木の谷地
15. 木戸木の谷地	49 木戸木の谷地
16. 木戸木の谷地	50 木戸木の谷地
17. 木戸木の谷地	51 木戸木の谷地
18. 木戸木の谷地	52 木戸木の谷地
19. 木戸木の谷地	53 木戸木の谷地
20. 二重川北岸	54 二重川北岸
21. 二重川北岸	55 二重川北岸
22. 二重川北岸	56 二重川北岸
23. 二重川北岸	57 二重川北岸
24. 二重川北岸	58 二重川北岸
25. 二重川北岸	59 二重川北岸
26. 二重川北岸	60 二重川北岸
27. 二重川北岸	61 二重川北岸
28. 二重川北岸	62 二重川北岸
29. 二重川北岸	63 二重川北岸
30. 二重川北岸	64 二重川北岸
31. 一本木	65 一本木
32. 一本木	66 一本木
33. 一本木	67 一本木



Fig. 2 上峰町遺跡図 (1/50,000)

III. 平成30年度の確認調査

Tab.1 平成30年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	一本谷遺跡	上峰町大字坊所字一本谷 2552番地196 2552番地197 2552番地198 2552番地144 2552番地99 2552番地93	株式会社ハウスパートナー	分譲宅地造成工事	831	60	平成30年4月23日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
2	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字三上 3185番地1	個人	共同住宅建設工事	891	90	平成30年5月17日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
3	周知外上米多地区	上峰町大字前牟田字木本杉 1562番1 1562番4	個人	資材置場造成工事	354	20	平成30年5月25日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
4	櫛寺遺跡(1)	上峰町大字坊所字櫛寺 732番地1 751番地3	個人	共同住宅建設工事	459	60	平成30年6月12日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
5	寺家遺跡	上峰町大字前半田 1361番1	個人	個人専用住宅建設工事	2,312	20	平成30年6月18日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
6	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字三上 3181番地3 3182番地1	株式会社山崎不動産	複数住宅建設工事 分譲宅地造成工事	1,580	180	平成30年6月25日 平成30年6月28日	土壌・ビット等が検出された。遺物は検出されなかった。	下水工、側溝工立会後、工事実施。 検出された遺構は盛土保存。	
7	三上遺跡(3)	上峰町大字坊所字三上 3205番地1	個人	埋蔵文化財の有無確認	981	22	平成30年6月27日	遺構・遺物は検出されなかった。		
8	坊所二本松遺跡	上峰町大字坊所 339番地1	個人	埋蔵文化財の有無確認	859	30	平成30年7月23日	ビット、土壤、構築が検出された。		
9	三上遺跡(4)	上峰町大字坊所字三上 3047番地2	個人	個人専用住宅建設工事	241	24	平成30年8月9日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
10	四本谷遺跡(1)	上峰町大字堤字四本谷 1903番地222	JR九州住宅株式会社	埋蔵文化財の有無確認	330	32	平成30年8月9日	遺構・遺物は検出されなかった。		
11	三上遺跡(5)	上峰町大字坊所字三上 3231番地1	個人	共同住宅建設工事	890	90	平成30年9月10日	ビットが検出された。遺物は検出されなかった。	工事実施	
12	竪堀森集落跡	上峰町大字江迎字二本柳 889番地4	個人	個人専用住宅建設工事	302	10	平成30年9月13日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
13	三上遺跡(6)	上峰町大字坊所字三上 3150番地2	個人	個人専用住宅建設工事	318	32	平成30年9月26日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
14	三上遺跡(7)	上峰町大字坊所字西峰 2956番地1	個人	個人専用住宅建設工事	907	22	平成30年10月3日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
15	櫛寺遺跡(2)	上峰町大字坊所字櫛寺 792番地2	個人	個人専用住宅建設工事	276	28	平成30年10月31日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
16	周知外下津毛地区	上峰町大字坊所字八本谷 2629番地 2630番地	個人	太陽光パネル設置工事	641	20	平成30年11月8日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施	
17	西前半田遺跡	上峰町大字前半田字紙面町 1512番地	個人	個人専用住宅建設工事	549	20	平成30年11月28日	ビット状の落ち込みが検出された。遺物は検出されなかった。	工事実施	検出された遺構は現状保存。

No	遺跡名	所在地	原 因 者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備 考
18	三上遺跡(8)	上峰町大字坊所字西峰 2962番9	個人	個人専用住宅建設工事	451	20	平成30年12月27日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施	
19	四本谷遺跡(2)	上峰町大字堤字四本谷 1907番1の一部 1907番3 1907番5 1908番1	大和ハクス工業株式会社	共同住宅建設工事	985	50	平成31年1月11日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施	
20	周知外井手口地区	上峰町大字坊所字三本谷 2310番1 2310番2 2310番3 2311番1 2311番2 2311番3 2312番 2313番 2314番 2315番3 2316番1 2316番3 2317番1 2317番8 2317番10 2318番 2319番 2345番1 2347番1 2347番6 2347番7 2352番1 2354番1	株式会社G-stage	ゴルフ練習場建設工事	16,045	290	平成31年3月18日 ～ 平成31年3月20日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施予定	
21	船石遺跡	上峰町大字場字三本杉 601番4	個人	個人専用住宅建設工事	485	24	平成31年3月22日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施予定	

合計 30,687 1,144

上峰町全図



Fig. 3 平成30年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

H 30-1

遺跡名：一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字一本谷2552番地196、

2552番地197、2552番地198、2552番地144、

2552番地99、2552番地93

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：831m²

調査面積：60m²

調査時期：平成30年4月23日

立地と環境： 一本谷遺跡は、本町北部の大字堤地区の二塙山丘陵から国道34号線以南の本町中部の大字坊所字一本谷付近へ延びる井手口丘陵上に広がる縄文時代から古墳時代に及ぶ集落および墳墓遺跡である。

調査対象区域は、この井手口丘陵の中央部、標高25m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施

H 30-2

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字三上3185番地1

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：891m²

調査面積：90m²

調査時期：平成30年5月17日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高15m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 4 一本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 1 調査地全景

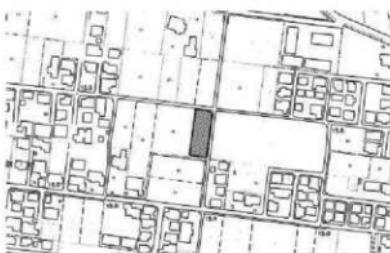


Fig. 5 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL. 2 調査地全景

H 30-3

遺跡名：周知外上米多地区

調査地：上峰町大字前半田字五本杉1562番1、1562番4

工事内容：資材置場造成工事

工事面積：354m²

調査面積：20m²

調査時期：平成30年5月25日

立地と環境： 調査対象区域は町南部現上米多集落、

吉野ヶ里町との境界標高6m付近に位置

し、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 6 周知外上米多地区 (1/5,000)



PL. 3 調査地全景

H 30-4

遺跡名：樺寺遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字樺寺732番地1、751番地3

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：459m²

調査面積：60m²

調査時期：平成30年6月12日

立地と環境： 樺寺遺跡は、上峰町大字坊所字樺寺一帯を占有する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、吉野ヶ里町目達原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約9m～11m付近に位置している。

調査対象区域は坊所丘陵の北東部、標高9m付近に位置しており、これまで個人専用住宅として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 7 樺寺遺跡(1) (1/5,000)



PL. 4 調査地全景

H 30-5

遺跡名：寺家遺跡

調査地：上峰町大字前半田1381番1

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：2,312m²

調査面積：20m²

調査時期：平成30年6月18日

立地と環境： 寺家遺跡は、本町の中央部から南部にかけてのびる目達原丘陵の南部、現寺家一集落の標高4m付近に位置する弥生時代の集落跡である。

調査対象区域は4m付近に位置しており、これまで宅地であった。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 8 寺家遺跡 (1/5,000)



PL. 5 調査地全景

H 30-6

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字三上3181番地3、3182番地1

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,580m²

調査面積：180m²

調査時期：平成30年6月25日、28日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高16m付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：土壙・ピット等が検出された。遺物は検出されなかった。

調査後措置：検出された遺構は盛土保存。下水工、側溝工立後、工事実施。

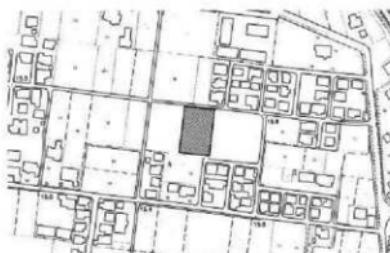


Fig. 9 三上遺跡(2) (1/5,000)

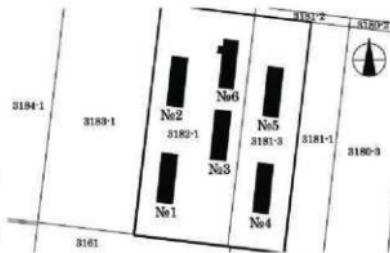


Fig. 10 トレンチ設定図 (1/1,000)

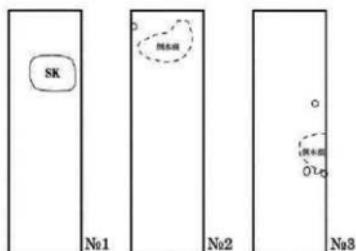
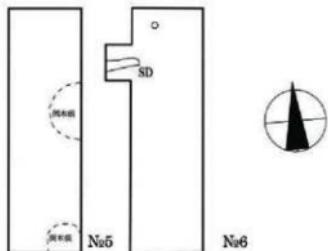


Fig. 11 ドレンチ略図 (1/200)



PL. 6 調査地全景



PL. 7 No.1試掘溝遺構検出状況

H 30-7

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字三上3205番地1

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：981m²

調査面積：22m²

調査時期：平成30年6月27日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高15m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 12 三上遺跡(3) (1/5,000)



PL. 8 調査地全景

H 30-8

遺跡名：坊所二本松遺跡

調査地：上峰町大字坊所339番地1

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：859m²

調査面積：30m²

調査時期：平成30年7月23日

立地と環境：坊所二本松遺跡は、上峰町の中南部の

坊所丘陵の南部下坊所丘陵南端からさら
に南東に延びる一支丘の標高6m～8m
付近に位置している。

調査対象区域は下坊所丘陵の標高7m
付近に位置し、これまで空き地となつて
いた。

遺構と遺物：ピット、土壤、溝跡が検出された。

調査後措置：埋蔵文化財有り。



Fig. 13 坊所二本松遺跡 (1/5,000)



Fig. 14 トレンチ設定図 (1/1,000)

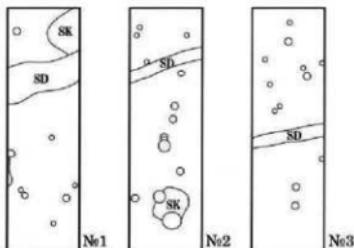


Fig. 15 トレンチ略図(1/200)



PL. 9 調査地全景



PL. 10 №.1試掘溝遺構検出状況

H 30-9

遺跡名：三上遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字三上3047番地2

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：241m²

調査面積：24m²

調査時期：平成30年8月9日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8~16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高 14m 付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 16 三上遺跡(4) (1/5,000)



PL. 11 調査地全景

H 30-10

遺跡名：四本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字堤字四本谷1903番地222

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：330m²

調査面積：32m²

調査時期：平成30年8月9日

立地と環境： 四本谷遺跡は、本町中北部、現切通集落西方、二塙山丘陵の南部、標高 20m~38m 付近に位置する弥生時代の墳墓遺跡である。

調査対象区域は井手口丘陵の北部、標高 24m 付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 17 四本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL. 12 調査地全景

H 30-11

遺跡名：三上遺跡(5)

調査地：上峰町大字坊所字三上3231番地1

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：890m²

調査面積：90m²

調査時期：平成30年9月10日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目連原付近から本町米多集落付近へ延びる目連原丘陵の中央部、標高約 8～16m 付近に広がる
弥文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目連原丘陵の中央部、
標高 15m 付近に位置しており、以前は耕
地であったが、ある時期から耕作が放棄
され、雑種地となっていた。

遺構と遺物：ピットが検出された。遺物は検出されなかつた。

調査後措置：工事実施

H 30-12

遺跡名：碇環濠集落跡

調査地：上峰町大字江迎字二本柳889番地4

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：302m²

調査面積：10m²

調査時期：平成30年9月13日

立地と環境： 碇環濠集落跡は、本町南部、現碇集落一帯の沖積地、標高 4m～5m 付近に広がる中世の環濠集落遺跡である。

調査対象地は、碇環濠集落跡の南西部、
標高 4m 付近に位置しており、調査対象
地を含む区域は、旧来水田として利用さ
れてきたが、先年分譲宅地として造成工
事が実施され、以後更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかつた。

調査後措置：工事実施

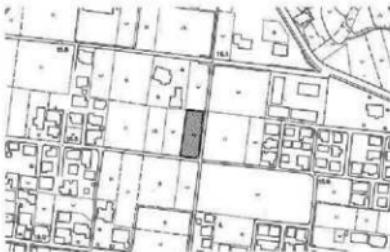


Fig. 18 三上遺跡(5) (1/5,000)



PL. 13 調査地全景



Fig. 19 碇環濠集落跡 (1/5,000)



PL. 14 調査地全景

H 30-13

遺跡名：三上遺跡(6)

調査地：上峰町大字坊所字三上3150番地2

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：318m²

調査面積：32m²

調査時期：平成30年9月26日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8～16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高15m付近に位置しており、以前は旧陸軍飛行場跡の耕地であったが、先年分譲宅地として造成され、以後、更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 20 三上遺跡(6) (1/5,000)



PL. 15 調査地全景

H 30-14

遺跡名：三上遺跡(7)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2956番地1

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：907m²

調査面積：22m²

調査時期：平成30年10月3日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8～16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中南部、標高 10m 付近に位置しており、これまで畠地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 21 三上遺跡(7) (1/5,000)



PL. 16 調査地全景

H 30-15

遺跡名：樅寺遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字樅寺792番地2

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：276m²

調査面積：28m²

調査時期：平成30年10月31日

立地と環境： 樅寺遺跡は、上峰町大字坊所字樅寺

一帯を占有する弥生時代から中世に及ぶ
集落遺跡で、吉野ヶ里町目達原付近から
本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、
標高約 9m～11m 付近に位置している。

調査対象区域は坊所丘陵の北部、標高
10m 付近に位置しており、これまで個人
住宅に隣接する畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施

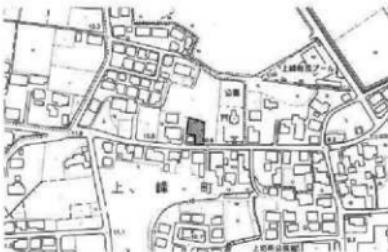


Fig. 22 樅寺遺跡(2) (1/5,000)



PL. 17 調査地全景

H 30-16

遺跡名：周知外下津毛地区

調査地：上峰町大字坊所字八木谷2629番地・2630番地

工事内容：太陽光パネル設置工事

工事面積：641m²

調査面積：20m²

調査時期：平成 30 年 11 月 8 日

立地と環境： 調査対象区域は、町中部、下津毛地区

の外記溜池北側付近を谷頭とし、下津毛
丘陵と坊所丘陵を分かつ浸食谷の西岸、
段丘崖直下の標高 10m 付近に位置して
おり、これまで田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 23 周知外下津毛地区 (1/5,000)



PL. 18 調査地全景

H 30-17

遺跡名：西前牟田遺跡

調査地：上峰町大字前牟田字紙岡町1612番地

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：549m²

調査面積：20m²

調査時期：平成30年11月28日

立地と環境： 西前牟田遺跡は、本町南西部現上米多

集落付近へ延びる目達原丘陵南端部の微高地に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域はこの目達原丘陵の南部の微高地西辺部、標高5m付近に位置しておりこれまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：ビット状の落ち込みが検出された。遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施

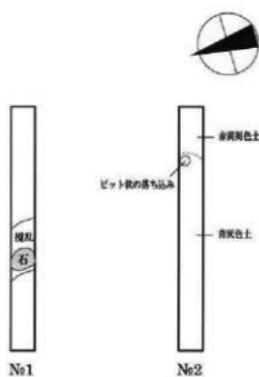


Fig. 26 トレンチ略図(1/200)



Fig. 24 西前牟田遺跡 (1/5,000)



Fig. 25 トレンチ設定図 (1/1,000)



PL. 19 調査地全景



PL. 20 No.2試掘溝

H 30-18

遺跡名：三上遺跡(8)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2962番9

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：451m²

調査面積：20m²

調査時期：平成30年12月27日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目連原付近か

ら本町米多集落付近へ延びる目連原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる
绳文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目連原丘陵の中南部、
標高11m付近に位置しており、既に区画
造成された雑種地で一部が菜園として利
用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 27 三上遺跡(8) (1/5,000)



PL. 21 調査地全景

H 30-19

遺跡名：四本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字堤字四本谷1907番1の一部、

1907番3、1907番5、1908番1

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：985m²

調査面積：50m²

調査時期：平成31年1月11日

立地と環境： 四本谷遺跡は、本町中北部、現切通集
落西方に立地する二塚山丘陵の南部、標
高20m~38m付近に位置する弥生時代
の墳墓遺跡である。調査対象区域は二塚
山丘陵の南部、標高24m付近に位置して
おり、先年、アスファルト舗装され、北
に隣接する介護福祉施設の駐車場とし
て利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 28 四本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL. 22 調査地全景

H 30-20

遺跡名：周知外井手口地区

調査地：上峰町大字坊所字三本谷2310番1、2310番2、

2310番3、2311番1、2311番2、2311番3、
2312番、2313番、2314番、2315番3、
2316番1、2316番3、2317番1、2317番8、
2317番10、2318番、2319番、2345番1、
2347番1、2347番6、2347番7、2353番1、
2354番1

工事内容：ゴルフ練習場建設工事

工事面積：16,045m²

調査面積：290m²

調査時期：平成31年3月18日・19日・20日

立地と環境： 調査対象区域は町東部、みやき町との
町境に位置する井手口地区的標高10m
付近に位置し、これまで田として利用さ
れていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 29 周知外井手口地区 (1/5,000)



PL. 23 調査地全景

H 30-21

遺跡名：船石遺跡

調査地：上峰町大字堤字三本杉601番4

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：485m²

調査面積：24m²

調査時期：平成31年3月22日

立地と環境： 船石遺跡は、みやき町高柳集落付近か
ら本町切通集落付近へ派生する船石丘陵
一帯に所在する弥生時代の集落、墳墓を
主体とする绳文時代から中世に及ぶ複合
遺跡である。

調査対象区域は、船石丘陵の北西部、
標高27m付近に位置しており、これま
で宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 30 船石遺跡 (1/5,000)



PL. 24 調査地全景

報告書抄録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさXI							
書名	上峰町内遺跡確認調査XI							
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 ——平成30年度—							
卷次								
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第48集							
編著者名	原田 大介・伊達 有彩・松本 周作							
編集機関	上峰町教育委員会							
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888							
発行年月日	2020年3月31日							
所取遺跡名	所取遺跡名	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m ²	調査原因
市町村	市町村	遺跡番号	。	。	。	。	。	
佐賀県三養基郡 上峰町一円	佐賀県三養基郡 上峰町一円	41345				2018.4. ~ 2019.3		町内における各種開発行為
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
町内遺跡	墳墓跡 集落跡 城館跡	弥生 古墳 奈良・平安 中世	ピット・溝跡・土壙等					

上峰町文化財調査報告書第48集
上峰町内遺跡確認調査XI

令和2年 3月31日 発行

編集
発行 上峰町教育委員会

佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4

印刷 大同印刷株式会社

佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20







